



司会者
正木 啓子さん
●大阪府土木建築学会副会長兼副委員長
土木設計事務所

司会 今日が大学で土木を専攻しておられるこれだけたくさんの方に会えて、とてもうれしい気持ちです。土木のイメージアップを図りたいという趣旨にお応えできるかどうかは別として、とにかくまたないこの機会を多くに楽しみたいと思います。まずはじめに私のことから申し上げます。17年に神戸大学の大学院を出ております。当時は好景気で、就職はほぼ希望通りの会社を受けられるという状況でしたが、土木の女子学生ということで門前払いで試験を受けられませんでした。というより土木専攻に女子が来るなんて会社側も想像さえしていなかった。そんなふうでした。幸い私はきつと何かのまちがい(ウ)で大阪府に入ることができましたが、さて、おそらくみなさん今迄に何回となく受けていらつしやる質問と思いますが、何故、土木工学を専攻したかというそのあたりからお聞きしたいと思います。

木元 私もやっぱり建築が第一志望で(笑)。でも市大の土木の研究室に環境工学というところがあって、はじめそこに憧れていたんですけど、今は環境以外にも土木はおもしろいなと思います。

佐藤 私は第一志望から土木だったんですけど、それは土木と建築の違いをあまり認識していなかったみたい。(全員笑)はじめは環境工学の公害関係のことがやりたいと思っていましたが、今は計画の方にあります。

岡本 土木を志望したのは、町を作ったり、全体を作るスケールの大きさがいいなと思って。

樋口 私も建築に行きたかったんですけど、土木の方が受かってしまって、これから本当にどうしようかなと思っています。

斎藤(仁) 市大は第三志望まで書いて、ちやうど空いていたからみたいなことで土木を書いたら受かってしまって、両親がすごく反対だったんですけど、家から通える近さというのが魅力です。

窪田 私も第一志望は建築だったんですけど(笑)もともと物を作るということが好きで、実際土木に入ってみて、色んな分野で土木が活躍しているのを知って、ああ、良かったと思ってるんです。最近興味を持っているの

はじめつから土木志望じゃなかったけれど、今はそのスケールの大きさに、夢と希望を持ちはじめている。

は解体、それも破壊の方、まだ日本ではあまりやっていないと聞いたんですけど、一度調べたみたいなんです。

古谷 私は大学に進学すると決めたとき、自分が何をしたいか分からなくて、でも色いろ考えていくうちに、人間とか自然とか地球みたいなものじゃないかと、で結果的に土木を選んだんですけど、間違ってたかなって思っています。

八幡 私はとにかく手に職をつけたかったのです。はじめはインテリアコーディネーターとかカタカナの職業にあこがれて建築を志望したのですが結果的には土木になってしまいました。学科を聞かれて、土木というのが恥かかったんですけど、今日のような座談会や、企業が女性の受け入れに積極的なことを知り、少しずつ土木へ来て良かったなと思いはじめています。

西田 私は第一志望が建築だったんですけど、合格発表のとき建築に番号がなくてすこしい



ヨックで、土木のところで番号を見つけたときはやっぱりすこしくうれしくて、親も喜んでくれて。合格してから土木関係の人に電話をかけて、どんなことするんですかって聞いてまわったり(全員笑)。女子は学科で一人なんですけど、ちやうと優越感を感じたりしています。

中村 私は数学が好きで、土木なんて全然考えていなかったんですけど、色いろ調べていくうちに、工学部でやる数学の方が実際に応用できるのじゃないかということで土木を受けました。今は自分の好きなことができてとても楽しいです。

山田 とどめを刺すようでした。知らないんですけど、私も建築に行きたくて仕方なかったんです。(全員笑)でも偏差値という壁に阻まれて、建築だったら建物一つしかできないけれど土木だったら町全体できる、なんて言い訳をして、もちろん後悔なんかしていませんよ。(笑)



大廣 始さん 北口 雅章さん 日野 雅博さん 湯室 和夫さん 藤村 浩幸さん



●インタビューを終えて
忙しい仕事の合間に来ていただいたにもかかわらず、初めての経験で準備は私のインタビューに際して事前に済ませていただき、とても感謝しました。言葉は通じなくても同じ夢、世界最大の明石海峡大橋に向けて一丸となって取り組む、ひとむきも笑顔と熱意がすごく感じられ、私も思えました。同じ建設業で働いて私も、その仲間として誇っていただき、ちよつぷり誇りを感しました。これからも健康に元気を付けて頑張ってください。
インタビュー/佐々木徳子

大廣 私の聞いた話では、明石海峡に橋を架ける計画はずいぶん昔から既にあつたということ。それがやっと現実の姿になった訳ですね。

それと、土木技術の進歩は、たとえばコンピュータの進歩と比べてかなりゆっくりしているということ。この大橋にしても何十年も前から調査・研究が始まり、多くの人の努力の結果いまやっとあそこまで到達したわけです。技術力というのは時間がかかるということをもっとよく感じます。

日野 私は、第一線の現場に出ていますので、自分の一言一言が現場の状況を左右するということがあり、そんなときやりがいを感じます。逆に、これだけ大きな仕事ではいくらでも補充がきくわけで、私が突然いなくなっても仕事は進む、そこが残念というか仕方がないというか……

湯室 私の場合は事務所の中で、現場の人たちがムラ・ムダ・ムリなく安全に働けるように計画を立てています。ヘンな計画を立てればたいへんな人数の方に迷惑をかけることになりません。とにかく慎重でなければなりません。それと、現場がデカイものなので課がいくつもあり、情報の流れがとどろくと隣が何をやっているのかを見失うことがあります。十分周りを見回さないといけないなと痛感しています。

「汚い、きつい」は返上します！

建設業界は昔から危険だとかきついとか汚いと言われていますが、この辺はどうお感じになっていますか。それと安全について一番大事だと思われる点はどんなことでしょうか。

仕事を理解してくれろ 女性って最高だなあ

話は変わりますが、好きなタイプの女性像とか結婚観、また理想の家庭像みたいなものについてお伺いしたいのですが。藤村 私は3月末に結婚したばかりで、すぐ単身赴任をしました。今の奥さんが最高だとは思いませんが(笑)、社内結婚ですので、私の仕事の中心をよく知ってくれています。4年くらい付き合ってみて、単身赴任しても逃げられる心配はないなと思ったので結婚しました。やはり自分を理解してくれる人が一番いいですね。

北口 私も結婚しています。この仕事は朝が早く夜も遅い、だから留守をまかせられる女性がいいと、いまになって思うんですが(笑)。大廣 私は結婚して7年くらいになるので、いまさら理想像と言われても……(笑)。やっぱりいっしょにいて退屈しない女性、仕事も家庭も全体的に理解してもらえ女性がいいと思いますね。

日野 そろそろ結婚しなければとは思いますが、相手がいらないので見つからずから考えようかと……この業界は結婚が遅い方も多いので、まだ安心してらるんですけど。湯室 私も1、2年前まではそうでしたが、最近若干あせってきました。やはり、仕事も含めて私たちのことを理解してくれる女性、いっしょにいても気疲れしない、おもしろい女性がいいですね。

藤村 安全管理とは、自分がこれをしたら危ないという判断と自覚だと思います。危険を感じたら、すぐそれを危険でないようにするのが私たちの仕事です。ですから、危険な状況をできるだけ少なくするという前向きな方向で常に考えています。たしかにカッコわるい。でも、現場をカッコよくきれいにしていければ、土木なんかヤリガイがなくなるんじゃないですか(笑)。

大廣 建設業界がきつい、汚い、危険な業界だと言われていたことは聞いていたことがありますが、私自身はそれほど感じていません。危険は少しありますけど、でも事故の多くは、それなりに対処すれば防げるものだと思います。汗を流して大きな架設を終えたあと、汚れた作業服のままビールを飲む、そういうときに、やっつけてよかった、と心から思いますね。

北口 安全とは、各作業員がムリをせず自覚をもってやることに尽きます。日野 汚いと給料が安いとか、最近あまり感じなくなりましたが、この業界に入った当時はずいぶんギャップを感じました。ある程度は知っていたつもりだったので、それ以上に現実には厳しかった。ほかの人がどうかはわかりませんが、やはり改善はしていかないといけないという気がします。それがないと人が集まりませんからね。

湯室 私も、世の中全体がきれいなイメージになってきているときに、土木だけがこのままというのではどうかと思えます。先輩の話ですが、数年前他の業界が週休2日を要求しているときに、建設業だけが日曜日休ませろ、というプラカードを立てていたと聞きました。工事の金銭的な面なのか工程的なものなのかわかりませんが、これからは土木のイメージアップということも、もう少し考えてほしいと思います。

デッキ世界だから夢もデッキノ

では最後に、将来ぜひやってみたいと思われる仕事の夢をお聞きしたいのですが。藤村 私は海洋レンジャー施設をやってみたくて、人工島とか、土地のない所に土地を造ってそこに都市計画を考えていく、そんな方面をやってみたくてですね。北口 明石海峡大橋を超える橋ができるときは、ぜひ参加したいです。大廣 私は、橋の仕事をスタートから1回やってみたくて、いままではアウトラインが決ま



っているなかで設計したり造ったりしたことはあるんですけど。

日野 自分の納得いくものを1回造ってみたいですね。この5年間で最初は羽田空港、次にこの明石と大きなプロジェクトに参加してきましたが、今度は自分の実力をためせる小さいものを、善かれ悪かれ、自分の納得のいく形で取り組んでみたいと思います。

湯室 明石海峡大橋というのは、本州四国連絡公団さんにおいてもいわば集大成のようなものであり、完成された技術があると思うんです。10月から特殊水中コンクリートを打つというところで、私もこの現場でずいぶん勉強させてもらっています。この経験を活かせるような現場に今度は行きたいと思えます。私は欲張りなものですから、橋以外にもダムとかトンネルとか造成とか、いろんなところを回りたいですね。

どうぞ、いつまでもロマンと誇りを持ち続けて、ぜひ皆さんの夢を実現させてください。今日はお忙しいところを、ほんとうにありがとうございました。